

# 徳島子どもと教育

徳島県教職員の会  
〒771-0017徳島市川内町鶴島115  
黄金ビル 徳島労連事務所内  
TEL 088-665-6644  
FAX 088-665-2117  
携帯 090-2891-5189  
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp  
2017年12月10日 No.223

## 秋のひまわり学校に150人!

教職員の会と徳島生活指導研究会、新日本婦人の会徳島県本部がいっしょに実行委員会をつくり、取り組んでいる「ひまわり学校」。去る11月23日に、ミカン狩りを楽しみながら「秋のひまわり学校」を開きました。



参加者は、子ども・大人合わせて150人余り。募集の時には予想していなかった参加者の多さに、実行委員会メンバーの頭に不安がよぎりました。でも、成功させたいという熱い思いでいろいろな工夫を凝らし、準備したかいあって、予定通り行うことができました。夏の時もそうでしたが、今回も「みんなが主役」で取り組むことで、充実した活動ができるのだと、改めて「意欲」の力を確信しました。

開校式の後、6班に分かれて豚汁づくり（小さい子は白菜やこんにゃくを手でちぎり、大きい子は包丁で野菜を切る）と飯ごう炊さん（限られた水でお米をこぼさないようにうまく洗う）の活動です。火おこしはお父さんの役、子どもたちは、どの子もそれぞれの役割を持って一生懸命がんばっていました。食事の準備ができたなら、ミカン狩りに出発。おいしいみかんを食べている間にご飯も炊けて、豚汁もできあがりしました。

かなり強い風の中、みんなで暖かい豚汁を完食。午後は、河原遊び（水切り・宝探し・石積みなど）です。河原の石が魅力的に見える子ども時代にぴったりの活動だと思いました。初めて水切りを教えてもらってできるようになった6歳の孫が満面の笑みでした。

大人数でのひまわり学校は、未知の取り組みでしたが、班長さんの子どもたちがしっかり小さい子のお世話をし、それを支える大人の集団がいて成り立ったのだと思いました。共同の子育てを学ぶ場でもある「ひまわり学校」、また春に元気な子どもたちに会いたいと思っています。

(吉野川市・M)



## 教組共闘連絡会の全国教職員学習交流集会報告

(2017年11月18・19日 佐賀県唐津市にて開催)

報告者：喜多啓二

全国交流集会は、全体会の挨拶・基調報告・講演、その後の分科会・基礎講座等と豊富な内容でしたが、紙面の都合で、「講演」についてのみ報告します。

\*「教組共闘連絡会」とは、全国組織の違いを超えて要求実現の運動をすすめる教職員組合の共同組織で、全国で約80組織が参加しています。教職員の会は、組合ではありませんが、子どもと教育・くらしを守るために、全国的な教育要求実現等の取り組みに連帯しています。



地元教職員組合「三宅太鼓」



全体会・基調報告



鈴木氏・講演

### 講演報告

**講師** 講師は、鈴木大裕<sup>だいゆう</sup>氏。16歳で米国に留学し、修士号を取得後帰国。通信教育で教員免許を取得し、千葉県の公立中学校で6年半教鞭をとる。その後、フルブライト奨学生として再渡米し、コロンビア大学教育大学院で博士号を取得。現在、高知県土佐町で、教育を通した町おこしに取り組みつつ、講演・執筆活動もしている。

**演題** 「崩壊するアメリカの公教育：アメリカの人々の抵抗、分岐点に立つ日本」

### 講演内容

#### ○どこの国の学校か

ある学校では結果がすべて。常に生徒をテストして、数値化されたデータを管理職が管理、分析し、教員評価と指導に反映。カリキュラムは、シンプルで、学力標準テストの対策を中心に組まれる。

この学校のもう一つの特徴は、非常に静かで落ち着いた学習環境をつくること。その要因は二つ。一つは厳格な学習規律を設けていること。話を聞いている時の手の位置、立ち方、うなずき方のほかに手をあげる角度まで決められている。二つ目は「ゼロトレランス」を用いた生徒指導方式で教員の権限を強め、子どもたちをコントロール。

#### ○「3本の楔<sup>くさび</sup>」で公教育の崩壊が……

上記はアメリカのある公立学校の姿である。アメリカの市場型教育改革を支える「3本の楔<sup>くさび</sup>」がある。1本目はデータとなる「学力」を標準学力テストの点数へ、2本目は教師の「指導力」をテストの点数向上のためのテクニックや動作へ、3本目は「何を教えるか」を定めていたカリキュラム・スタンダードを「何ができるようになるか」



というパフォーマンス・スタンダードへ。

実際にアメリカでは、各学校や教員が学力テストの点数でランクづけされ、「結果責任」を果たせない学校は廃校、教員は職を追われるようになった。人を育てる場所であったはずの学校は、過剰な点数競争でテスト対策主体の学習塾のようになり、市場化と民営化が進むことで公教育の概念そのものの崩壊が起こっている。

### ○日本でも……

日本でも最初の2本の楔はすでに打たれている。民主党政権下で抽出式にされた全国学力調査が、安倍政権であえて全員参加の悉皆式に戻され、学校別の成績開示が可能になったことで、学校は「塾化」し、テストの点数主体の偏狭な「学力」観がいつしか教育を支配するようになってしまった。学習指導要領は、「何を学ぶか」の基準を定めるものであった。しかし、昨年8月に公表された中央教育審議会の「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」には、「『何ができるようになるか』を意識した指導が求められている」とある。日本における第3の楔だ。

なぜ、今、パフォーマンス・スタンダードなのか。学力テストの点数に基づく「結果責任」で学校と教員を徹底的に管理し、パフォーマンスの低い学校が学習指導要領の法的基準性を根拠に閉校、教員が解雇に追いやられる可能性はないのか。

### ○教職を単純労働に、AIで……

「何ができるようになるか」という学習到達度を前面にした学習指導要領の改定から見えてくるのは、「早く安く効率的に」を追求したベルトコンベア型の教育ビジョンだ。教職は高度専門職になるどころか、逆に単純労働になるだろう。教えるという行為は、点数アップに有効なテクニックとしてデジタル化され、販売・拡散されるだろう。そして、効率化を追及する中でAIの活用に伴車がかかり、大勢の生徒がそれぞれの能力に合わせた問題をプログラミングされたコンピュータに向かう部屋で、機械の不具合や集中力の切れた生徒の声かけに専念する非常勤講師が教員にとって代わる時代がそこまで来ているのかも知れない。

人間の教育が、ますます貧弱なものになるのではないか。

### ○いかに抵抗するか

アメリカのある教師は言った。「私が教師を去るのではなく、教師の仕事が去っていった。教師の仕事させろ」。

シカゴでは、子どもや市民のために抗議活動をする教職員を市民が応援している。ニューヨーク州では、学力テストのデータを出さない動きが広がりを見せている。親の立場で学力テストをボイコットしているのだ。私自身も土佐町で学校に通う子どもがいるが、学力テストを子どもが受けないようにしている。

日本で行われている悉階式の学力テストを抽出式にすること、そして、浮いた予算を教育のために有意義に使うようにする運動が、まず、必要ではないか。

## 職場の臨時教員にアンケートを書いてもらってください！

会員のみなさん、今年度は、隔年で実施している臨時教員アンケートを行う年です。一昨年度は、過去最高の180名以上の回答があり、徳島新聞でも大きく取り上げられました。

今回も、全臨時教員の1割以上、130名以上は集めたいと思っています。各学校にも、郵送しますが、職場の臨時教員に直接声をかけていただき、アンケートを集めていただければと思います。合わせて臨時教員の悩みや、職場の問題点を話す機会にさせていただければと思います。**1月10日が締め切り**です。返信用の封筒で送り返してください。よろしくお祈りします。

## ゆきとどいた教育を求める全国署名・徳島県署名の取り組みスタート！！

今年度も、ゆきとどいた教育を求める全国署名・徳島県署名に取り組みます。今年、衆議員選挙でも教育費無償化を与党も選挙公約に挙げるようになってきました。教育費無償化を進めるチャンスです。地域・職場でたくさん署名を集めてください。集めた署名は、全国署名は衆議院・参議院議長宛に、県署名は県議会議長宛に請願として提出します。

署名は来年2月9日に一次集約を行います。最終集約は2月下旬に予定しています。よろしくお祈りします。

### 毎年恒例の望年会のご案内

**12月28日(木)18:00から、徳島市栄町1-10(電話050-5827-2449)、アクティから徒歩30秒。**

**今年も 郷里(さと)で、2時間飲み放題5000円です。**

**申し込みは、12月26日までに、河野さん(電話090-9456-3369)までお願いします。**

